西九州大学子ども学部紀要　第12号　83-92（2021）

論　　文

子どもの育ちと人間関係の構築に関する研究（2）
－保育現場における保育者視点の一考察－

井上聖子・田中麻里

（西九州大学子ども学部子ども学科）

（令和３年１月12日受理）

A Study on Child Development and Human Relations Construction (2)
－ A consideration from the perspective of a childcare worker at a childcare site－

Satoko INOUE, Mari TANAKA

（*Department of Children's Studies, Faculty of Children's, Nishikyushu University*）

（Accepted January 12, 2021）

Abstract

This study focused on the development of human relationships in 4-year-old children, interviewed the 4-year-old child teacher at the attached kindergarten, and analyzed what was organized. Various factors such as differences in feelings and feelings, loss of friends, and whether or not there was a promise were observed in the troubles between 4-year-old children.4-year-olds seek connections with their peers, but it is difficult for them to know their feelings and solve them on their own. Nursery teachers consider that the child's mind is stable and that he / she expresses his / her feelings in words. (1) the importance of communicating the child's feelings, (2) the importance of negotiating experience with the child's troubles , (3) class the importance of discussion as a whole was raised, and it was an important role for childcare workers.

Key word：Human relationships　人間関係
4-year-old child　４歳児
Manifestation of intention　意思表示
Childcare perspective　保育者の視点

1．はじめに

子どもはその育つ過程において，家庭や集団生活での体験活動の積み重ねから，親や家族，身近な大人との関わりを通して愛着形成を行い，協調性，社会性を身につけていく。子ども期の体験で得られた人間関係の構築が，人格形成に大いなる影響を与えていく。ゆえに，子どもの育つ過程における体験を通した人間関係の構築に関する研究を進めることは，大変意義深いと考える。

本研究では，子どもの育つ過程において，物事の理解や人への興味関心が深まってくる「４歳児」に着目し，保育者がその人間関係の構築について，日頃の保育を実践する中で，子どもの人間関係をいかに捉えているのかを考察することとした。そのうえで，子どもの育ちに及ぼす人のかかわり方やその影響を分析したいと考えた。

2．問題と目的

1）「４歳児」の人間関係に関する発達

保育現場における人間関係のねらいについて，幼稚園教育要領（文部科学省2018）[1]，保育所保育指針（厚生労働省2018）[1]，幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府2018）[1]によると,「他の人々と親しみ，支え合って生活するために，自立心を育て，人と関わる力を養う。」と示され,「共通の目的に向け，一緒になって考え，工夫し協力する。」や「個の成長と集団としての活動の充実が図られ,『協同性』を養いながら活動を楽しむ」を重要視している。

４歳児の人間関係に関する発達を見ると，物事への理解や人への関心が深まる時期であり，そこには,「支え合い」「自立心」「一緒に考え、工夫し協力」等，個と集団における人間関係の構築の為の重要な時期と言える。また，保育者は，この時期の子どもの心の動きを丁寧に受け止めつつ，１）友達と一緒に心地よく生活できることを目指す，２）わくわくドキドキする遊びの中で，興味や関心を広げる，３）大きくなりたい心を見つめる，４）自分の思いを言葉で伝えることと，相手の言葉を聞くことの大切さを伝える，５）保育者が憧れの姿のモデルとなる[2]等を意識した関わりを行う必要があるだろう。

神田[3]（2013）は,「４歳児は，自分が安定するための足場を，保育士との関係の中にではなく，友達関係の中にも築こうとする。かかわり方がまだ十分にわからないため，上下関係をつくってしまったり，友達の嫌がることをして，トラブルを引き起こしてしまうが，大人の庇護によって安定を得るのではなく，友達の中で自立していこうとする成長の力が発揮される。」としている。子どもは，大人との関係だけでは満たされず，子ども同士の活動を充実させ，楽しむことを求めており，その体験が自身の成長につながると言える。

また，秋葉ら[4]（2011）は，子どもの集団生活における人間関係の発達について，①仲間のなかで自分を育てる，②ゆっくりじっくり思考の土台を育み，自分への信頼，他者への共感が育まれる，次にこんな自分になりたいと思う，③イメージの広がりと遊びの関係は，２・３歳児のみたて，つもり遊びから，４歳児はごっこ遊びや劇遊び等の集団遊びと変化し，感情の共有ができるようになる，④自分をコントロールし，できるまたはできない自分の姿や，友達の思い葛藤と矛盾，恥ずかしさ・怖さがあるけど挑戦したい等，自分で自分の気持ちを変え前向きになる，⑤自分を見つけ，自分を励ます，⑥仲間関係が育つ，⑦集団のなかで自我が育つ，⑧集団としての育ちがあること，を示している。４歳児になると「世話やきも一方的なやり方ではなく，相手がすることをちょっと待ってあげたり，教えようとしたりといった関係に変わっていく」ことや，４歳児を過ぎてくると「相手と自分は違う，自分が考えていることを相手も考えているわけではないと，違いにより敏感になり，相手と自分は違う，考えていることが違うとわかってくるからこそ，今度は，もっと深いところで，相手に気持ちを配ったり，心配したり，相手の思いを受け止めたり，相手の喜びや悲しみにも共感できるようになっていく」そして,「相手の目に見える姿だけでなく，目に見えていない部分にも心をよせられるようになっていればよい，別々の思いをもち，別々の生活背景をもっていることに思いをはせるようになってくる時期だけに，もう一度，相手のことを知っていくことが大切になっていく」と記している。また，４歳児は「ルールのある遊びも成立するようになるが，自分たちでルールを作り変えることはまだ難しく，どちらかというと，ルールを他から与えられたものとして捉えているために，逆にルールに縛られることも多い。」とも述べている。

本研究では，保育者への聞き取りの記録を通して，

４歳児の集団生活の場である幼稚園での様々な場面での人間関係に焦点をあてる。そのうえで，子どもの人間関係に関する変化や成長過程，及び，保育者の役割に関する考察を行い，子どもの育ちと人間関係の構築に関する検討を行う。

３．保育現場における子ども同士の人間関係 －４歳児の人間関係の育ちの実際の姿－

１）研究の方法

本学附属幼稚園の４歳児担任（４名）への聞き取り及びその記録を通して，１）子どもの人間関係に関する変化や成長過程，２）保育者の役割に関する考察を行う。聞き取りの内容は，今年度の保育において，①日頃，子どもの人間関係で，気を付けていること，②実際，仲間とのつながりにおいてのトラブルや気になったこと，③クラスの子ども達の友人関係において，期待していることの３点である。

幼稚園実習後、園の教育課程「人間関係」に関する　10月の子どもの姿の記録

歳児　　組　　学番　　氏名

3歳児
①色々な人の温かさや思いやりに触れ、安心して過ごす。
②喜んで登園し、先生や友達と一緒に過ごす楽しさを感じる。
③自分なりに満足して遊びながら友達と一緒に遊ぶことの楽しさを感じたり、それぞれに思いがあることに気付いたりする。
④遊具や道具の貸し借りをしたり、順番を待ったり交代したりして活動する。
⑤園生活の中で友達とかかわりながら、していいことや、してはいけないことに気付く。
⑥困ったこと、分からないことを伝えたり、感謝の気持ちなどを言葉で伝えたりする。

4歳児
①友達がしていること自分の遊びにも取り入れたり、自分なりに工夫したりして一緒に活動する楽しさを味わう。
②友達との関わりを深め、自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを感じたりする。
③協同の遊具や用具を譲り合ってみんなで大切に使う。
④友達と生活する中で、きまりの大切さに気付き、守ろうとする。
⑤（地域の人、高齢者の人と触れ合い）周りの人に親しみをもって関わる。

5歳児
①周りの人から認められる経験をしながら、友達との関わりの中で相手の良い面を認めたり褒めたりして、自信をもって行動する。
②友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり協力したりする。
③友達と力を合わせ、他のチームと勝敗を競う楽しさ、悔しさを共感する。
④異年齢の子どもとの関わりを深め、思いやりやいたわりの気持ちをもつ。
⑤（高齢者をはじめ地域の人々などの）自分の生活に関係の深い人に親しみ、感謝の気持ちを表す。

人との関係性について、印象に残っている子どもの様子や場面を思い浮かべ、記入しよう。　イニシャル＿＿＿＿児

	◎	○	△	思い浮かぶ具体的な子どもの姿
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				

Figure１．実習生の人間関係に関する子どもの姿の記録用紙（別添参照）

また，担任には，事前に，各配属クラスの実習生が記載した『附属幼稚園実習後，園の教育課程「人間関係」に関する10月の子どもの姿の記録（Figure１.参照)』を確認していただき，「実習生の子どもの見方・捉え方，内容について気付いたこと」を考えていただいた。実習生が接した子ども達の自然な人との関わりの様子を，客観的に捉え，聞き手とイメージを共有することが出来た。担任保育者の所見として，「子どもの様子を深く観察できている」「クラスで中心になる子ではなく，友達と関わることが積極的でない子にまで目を向けている」「友達に積極的に関われない子どもは，実習生と一緒に友達の中に入って行動してみようとしていることが伺えた」等が挙げられた。

保育者は実習生に対し，子どもが内面を見ようとする捉え方に気付き，子どもの人間関係においても手助けになっていると応えていた。以下，事例に取り上げる子どもを別の視点から知ることができた。

なお，聞き取りを行った４名の保育者は，経験年数が９年目１名，４年目１名，３年目２名で，それぞれ25名の幼児を担当している。２学期の終盤（令和２年11月）に子ども達の降園後，一人30分程度で聞き取りを行った。

２）研究の視点及び調査結果の分析

保育者は，様々なケースの子ども同士のトラブルにどのように向き合うか，一人一人違う要因があり，自身の対応がこれでいいのか，手探りで保育を進めている様子であった。例えば，あるクラスの男児は「遊び」で繋がっているので分け隔て無く構成メンバーが出たり入ったりしている。一方，女児の数人は人間関係そのものに振り回されて遊びが進まず，嫌な気持ちを泣く事で終始し，事態が改善しないということであった。また別のクラスでは男児の関わりで，一人の子どもについて行き，上下関係があるように思える，等である。

このように各クラス，子ども達が織りなす生活や遊びのトラブルは様々であり，保育者の「事態の受け止め方」と「関わり次第」で変わってくる。その日々の経験から様々な人間関係を学び始めている事を認識出来るものであった。子ども達は個々に成長発達の差はあるが，トラブルがあっても惹かれる友達の輪の中に入って行きたい姿がうかがえた。子ども同士の世界の中で大きなトラブルから小さないざこざまで，日々経験を積んでいるようであった。

その中で保育者は，子どもをどう見ていくのか。４歳児の「友達を求めて自己形成していく葛藤の姿」にどう向き合うか，保育経験から得た保育者の具体的な関わりや援助を整理し，分析していく。特に，９年の保育経験を積んだＡ保育者の視点やノウハウから，ヒントを得たい。保育者の言葉を「　」でそのまま引用し，述べていく。『　』は語りの中の子どもの発言や保育者の言葉がけ，また，下線は

筆者が強調したい部分である。次の３点を分析していく。

⑴　子どものおかれた背景や経験との関連

⑵　トラブルや気になることの実際の要点

⑶　保育者の援助や言葉がけ・態度

そして，子どもの人間関係の構築に必要な過程として，

⑷　子ども達の人と関わる力に必要な保育者の役割，を考察する。

⑴　子どものおかれた背景や経験との関連

①心が満たされ調子が安定している事

一般的に保育現場においてトラブルへの対応の際に，子どもが好ましくない行動をした場合に，謝れるか，相手に譲れるか等，形の上で事態を沈静化していることがある。往々にして，譲ることが出来るのは成長している子どもと捉えがちではないだろうか。しかし，保育経験の長いＡ保育者は「全体的に見て，友達に何かを貸したり，ルールを守ったり，相手の気持ちに耳を傾けるとか，受け入れるとか，優しく関わったりするのは『心が満たされているかどうかで変わってくる』のではないか。その時上手くいかなかったりトラブルが続いていたり，下の子が生まれて順番が回ってこなかったり，そういうことが一番関係してくるようだ。」と話している。まずは，子どもの心がどういう状態なのか，から見ている。子どもが身近な人との信頼関係において安定し，欲求が満たされていることが第一の前提として「心が満たされているか」が起こる事態に影響していると捉えるのが重要である。

②困ったときに助けられた経験がある事

次に３歳と４歳の，自分を他者の立場から見るかどうかの違いや，他者からの影響を考慮している点に着目した。「３歳は『自分自分』という（自分を前面に出してくる）が，４歳は幼稚園で年長さんから優しくしてもらった経験をよく覚えていて，去年はああだったのに，今年はすごく優しくなっている」と感じ，また『お家で弟に変わってあげているんだよ』とか『お母さんがこんなふうに言ったから』と友達に優しくする様子があった」。このように，してもらって嬉しかった経験を自分の行動に取り入れていくのは，「自分の状態がいい時」のようである。

③落ち込んでいる友達の気持ちが分かる事

「怪我して泣いている・注意されて泣いている友達がいたら，『大丈夫？』『これは危ないからダメだよ』『イヤだったのよね』『泣かなくてもいいよ』などと近くに寄って行き慰めている姿がある。」このように相手の気持ちに気付くことや年下の子どもに『どうしたの？』と聞き，耳を傾けようと気持ちが動き，人に関わり助けようと行動する事も大事である。

⑵　４歳児同士のトラブルから見える実際の世界

①思いや感じ方の違いから

事例ア．遊びの動きが激しくて

＜Ａ児とＢ児のやりとりから＞

「Ａ児とＢ児が，進級して直ぐ仲良くなったのですよ。だんだんＡ児は体が大きくて力が強くて，自分では面白いと思っていたことが，Ｂ児は嫌だったっていうのが，Ａ児は気付いていなくてするので繰り返しやってしまって。結局，Ｂ児は『幼稚園に行きたくない。Ａ君が,』になってしまって。で，Ａ児も力加減とか，自分は面白いと思ってやっていたかも知れないけど，お友達は嫌だった。『一回お友達の顔を見てごらん』と，『どういう顔しているか。笑っているかとか，困った顔しているか，とか表情を見て続けるか，続けないか考えてごらん』て。そういうトラブルがあって。繰り返しお話はしたんですけど。」「Ｂ児はされて嫌だったけど，笑ってしまっている感じだったので。たぶんＢ児はそういうタイプだったので，だけど笑ってごまかしちゃう感じだったので，そこも長引いた要因だったです。」現在，担任によると，Ａ児は活発な友達同士，Ｂ児は気の合う友達同士で楽しく過ごしているという（Figure２．参照）。

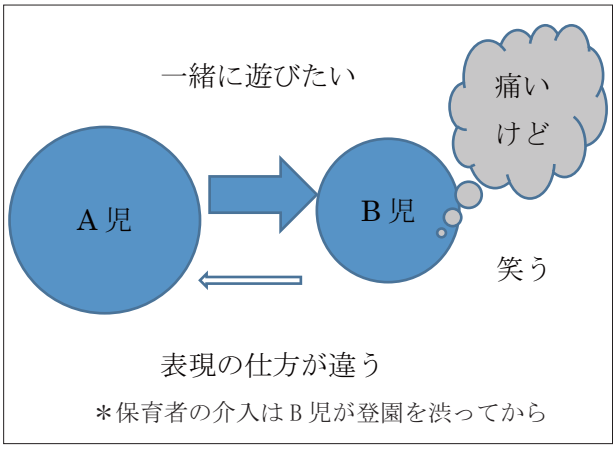

Figure２．　Ａ児とＢ児の関係図

子どもの育ちの分析：

「A児は，素直で正義感も強く，ダメな物はダメと言えるが，ダメと止めた時の力が強くて押されたと言われる」という。正義感が逆にとられ，友達から誤解を受けている。他者に理解されるにはどう振る舞うか，少しずつ気付いていくであろう。強いタイプの子どもは相手の本当の気持ちを言葉で聞いたり，保育者や周りの人が客観的に見てしていいこと行けないことに気付くよう伝えることが必要である。B児も，A児に「痛いから止めて」とは言えず，「笑ってごまかして」いた。今後もして欲しくないことは「止めて」と言葉で伝えていく必要がある。そのことで友達はあなたを嫌いにはならないことを体験しておくことも重要である。相手の様子に気付く視点（A児）と，本当の気持ちを伝える事の必要性を経験中（B児）である。

事例イ．思いやりのつもりが，え？違うでしょ
＜C児とD児のやりとりから＞

「この前は，タイヤ跳びをしていて，チームに分かれて合ったところでジャンケンをして，負けた方が元に戻って，また進んでいくという遊びをして，C児とD児の２人がジャンケンをして，D児が負けたのだけれど，C児が『いいよ』と言ってD児に譲ったらしいです『行っていいよ』て。D児は『え？でもCちゃんが進むのでしょ？違うでしょ？』という感じになって『イヤ行っていいよDちゃん』と言って。そしたらDちゃんが泣き出して私（担任）が話を聞きに行ったら『Cちゃんが勝ったのになんでDちゃんに譲るの？』と聞いて，Cちゃんは優しいことをしてくれたのだけれど，譲ったのは，たぶんC児的にはD児が泣いちゃうんじゃないかと思ってもういいよ」と（Figure３. 参照）。

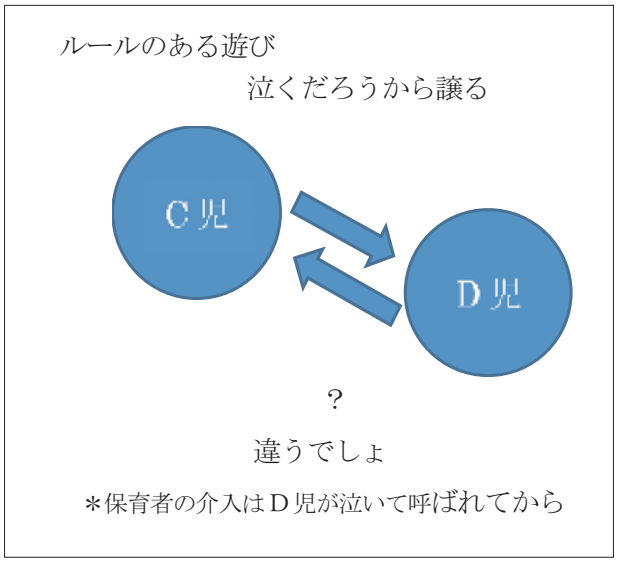

Figure３．C児とD児の関係図

子どもの育ちの分析：

「C児は４月生まれ，D児は３月生まれ，結構２人は去年から同じで，D児はC児の事を慕っているんですけど，お世話もしてくれるから。よく考えると１年の差があって，Cちゃん的にはたぶんDちゃんが分からないだろうからお世話してあげるという気持ちで。D児はついて行きたいのだけど，たまにCちゃんが上をいっているではないですけど，悔しかったりもするのかな。」と２人の気持ちを推察して話した。ルールのある遊びで相手が泣かないように譲ったC児だが，D児は，そうされることが悔しかった。

②仲間に入れてもらえない

仲間外れは４歳児に多く，担任によると「これを持っていないと入れない」「約束していないから遊べない」という理由や，「同じものが好きだから一緒に遊ぶ」傾向にあるという。仲間意識が強く，何をもって仲間分けをするのか，日常の生活の中で子ども達はどうやって仲間を探しているのか。同じ物はあるが仲間外れになる事があるのかという問いに，具体的には，「一緒に遊んでいたのに急に『一緒に遊ばない』と言われた。例えば，プリキュアごっこ等で遊んでいる子があまりプリキュアを知らなかったら『あっち行って』という感じにされたり，『鬼滅』もそうですし，『禰豆子』が２人いてはダメだ」という。このように，共通のイメージや思いが強くある子どもの発信に左右され，その中で自分はどう振る舞うのか，ごっこ遊びの重要な一因のようである。また，次の事例にもあるように「約束した」のかどうかも子ども達には重要である。

事例ウ．仲間に入りたいのに，しつこいと
＜E児とF児達４人のやりとりから＞

12月にあった事として「E児は，F児やG児と遊びたかったのですけど，F児とかは，その周りのG児やH，I児と遊びたいみたいで，それを言ったらしいのです。『今日はこの人達と遊ぶから遊べない』と。でも，E児はずっとついて回ったので，F，G，H，I児はイヤで，E児を取り囲んで，取り囲まれ

たら怖くなって，蹴ったりとか，叩いたりとか，顔をひっかいたりとかして，引っかかれたのはＦ児で，蹴られたのはＩ児で，Ｉ児は蹴られたから蹴り返して，というトラブルがあって。」保育者は他の保育者と一緒に話を聞き，その保育者は『Ｅちゃんも前の日から約束をしていて，遊びたくない事もあるよね。Ｆちゃんも同じ気持ちだよ。お友達の気持ちも考えてあげようね。』と話してもらったという。Ｅ児は一学期にされたら蹴ったりひっかいたり，思い通りにならないと手が出るので，よく喧嘩が起こっていたが，最近はあまりなかったようである（Figure ４．参照）。

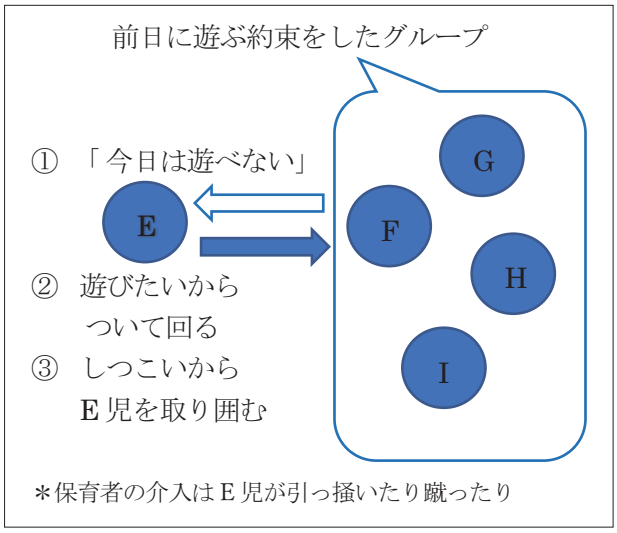

Figure 4． Ｅ児とＦ児達の関係図

子どもの育ちの分析：

Ｅ児は，女の子同士「手紙」で気持ちを伝える事もあり，別の友達には『さっきはごめんね』と書いて渡していたという。気持ちがまっすぐで，自分の思いが通らないと相手に手を出してしまう。しかし，手紙を書くという行為は，相手の気持ちを考えての謝罪の気持ちと，自分をプラスのイメージにしたいという思いからだろうか。友達のつながりの中にいたいと願っているのであろう。Ｅ児がどんな思いを持って友達関係の出来事の中にいるのか。いつもは遊んでいる仲間に「他の約束」があって拒まれるという経験を，どのように受け止めたか。Ｅ児を通して，けなげにもがきながらも友達の中に飛び込む姿に４歳児の人間関係構築の厳しさが推測できる。

さらには，仲間に入れてもらえるか，もらえないかは，Ｅ児の日頃の気性にも関係してくるため，保育者の介入は難しかったのではないか。保育者が両方の子どもの気持ちをどう受け止めるか，判断と関わり方が重要になる。Ｆ児達は，今回の仲間の構成と結束具合から，入って来て欲しくない遊びだったのか。今後の様子も見守っていく必要がある。

グループの中で，どう自分の思いを通し，自己抑制していくかを子ども自ら調整中である。

(3) 保育者の援助や言葉がけ・態度

事例エ．１回するはずが３回した

＜Ｊ児と５人の女の子のやりとりから＞

何をして遊ぶかは，よく起こるトラブルである。「大縄飛びで，縄跳びをしている子どもがいてそれを見て一人の子は『大縄飛びをしたい』と言って『一回してくるね』　と言って行ったらしいです。でも『三回した』らしく，女の子２人と周りに３人の女の子がいて，様子を見ていたんですけどなかなか解決しないなと思って，

（保育者）『どうしたの？』

（子ども）『Ｊちゃんがさっき１回するって』

（子ども）『～ちゃんが怒った。えーっと言って泣いている』

（保育者）『何でそんなに喧嘩になったの？』

（子ども）『一回と言ったのに３回したから』

（保育者）『そうねー，一回するってお約束で行ったんだね。お約束だったんでしょ。何回したの？』

（Ｊ児）『大縄飛びがしたくて３回した』

（保育者）『なぜしたか気持ちを言ったらお友達分

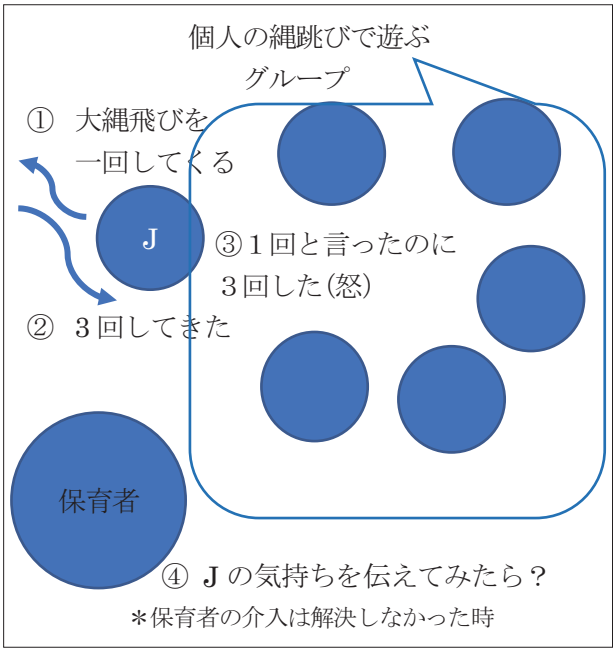

Figure 5． Ｊ児と他５人と保育者の関係図

かってくれるんじゃない？どうする？このまま遊び続ける？別の遊びをするの？』
（子ども）一人フラっとどこかに行き，一人が縄跳びを置いて，したかった気持ちが分かったみたいで
（子ども）『じゃあ一緒に大縄しよう』ってそのまま大縄飛びに行っていました。遊びに行こうと言ってバーンって衝突したり，どちらかが折れてあげたりとか。」

子どもの育ちの分析：

この事例は，タイミングを見計らって子どものコミュニケーション力が育つように，保育者が言葉を投げかけている。すなわち，領域「人間関係」（内容の取り扱い⑤）「人との関係の中で遊び，自己を発揮する中で互いに思いを主張し，折り合いをつける体験をしている」と言える。この事例は，したいことを言い合って友達のやりたい気持ちも尊重し，折り合いをつける事。気持ちが分かった上で皆が楽しく遊べるという道筋を，子どもから引き出しながら子どもの解決力になるように導いていると言える。「相手の気持ちを考えるとは，そうしたことで自分がどう思われているか，相手もですけど『そうしたら～ちゃんも皆もどう思う？』としっかりお話をしています。」

A保育者によると，今年は自分の気持ちを言えない子が多く，言葉や表現の仕方を知らないという。言いたいけど言えない子が多かったため，「始めは汲み取っていた」が「これからのことを考えると，自分で言う力が一番大事」と言うことで『自分で言わないとお友達も先生も気持ちは分からないし，もやもやした気持ちがずっとそのままだよ。自分のためにも何かお話をしてごらん』って，言葉で伝える事を大事にしています。」と語っている。

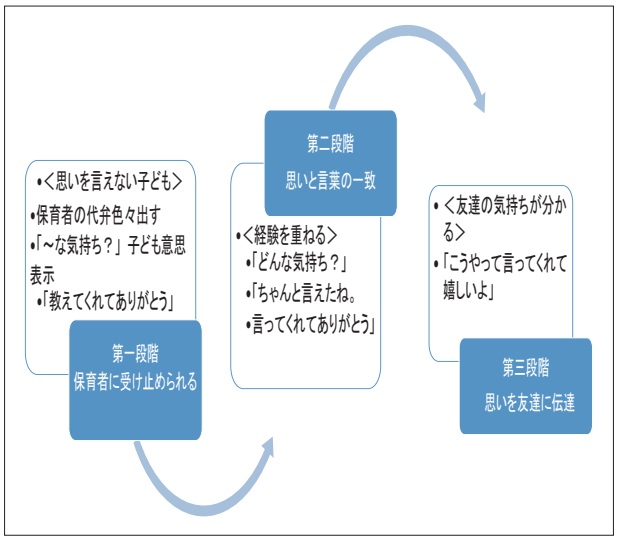

Figure 6．保育者が子どもの気持ちを考える段階図

A保育者は，４歳児が「相手のことを思いやる」その事が「自分のために」と自分に戻していくことを意識して，気持ちを言葉で表すために，段階を追って子どもに働きかけている。保育者が子どもの気持ちを考える段階図を Figure 6．に示す。

A保育者は，子どもが言いたいか言いたくないか，子どもの様子を窺いながら，真剣にあるいはさりげなく，気持ちを言葉で表すことを保育の中で大事にしている。その上で子どもの困難なところを感じて，次の３段階となっている。

１段階：受け止めて代弁し選択肢を与える
　　子どもが経験を積んでから
２段階：思いと言葉に一致を確かめ
３段階：実際に友達との交流
　　言葉に出して確かめている。

保育者は子どもの本当に気持ちを理解するため，洞察して様々な事を進めていくが，A保育者は「憶測でしかないので，『子どもに聞く』こと」を念頭に，子どもと対話し，友達につなげ，子ども自身の心を大事に言葉で表す力を育てることに力を入れて保育を行っている。

(4) 子ども達の人と関わる力に必要な保育者の役割

子どもは保育者に見守られ，その場に応じたコミュニケーションを学んでいく。事例に上げたように，友達との関わりを試行錯誤しながら働きかけを手がかりに，当事者として自分の気持ちを確かめ，友達関係を作っていく。そこには「気持ちを伝え合うこと」が中核にある。

A保育者によると「ありがとう」「ごめんなさい」が恥ずかしくて言えない子どもがいたことから，場面やタイミングを見計らって介入し，言えた時のうれしさを共感したという。日常生活の中で子どもが自然に相手に気持ちを伝えきれない困り感を援助しながら解決することも必要であろう。

言語聴覚士の中川[5]（2021）によると「保育は，『対人援助』のための仕事です。そのためのスキルが必要で，『よき大人モデル』として振る舞うことも，保育者に求められてる」と述べ，さらに「その時大事なのは，子どもの言葉をよい，悪いで判断せず，【私はあなたの真意を知りたい】というスタンスをとること。」と述べている。

次のポイントとして，ケンカを保育者がどう捉えているかが重要である。松井[5]（2021）は，仲良く遊ぶ共感の心の発達について,「『みんな(気持ちが)同じだね。楽しいね。』という状況では，心に負荷はかからないとし，自分の意見が通らない，思うようにならない状況は，ネガティブな感情をどうやったら解消できるのか子ども自身が考える機会となります」と，ケンカを「心の発達を促し社会性を養う絶好の機会」と述べている。東京の某こども園副園長[5]（2021）は，介入ポイントとして「基本的には，大人にとって調和のとれた解決には導かないようにしています。喧嘩を通して，さまざまに心が揺れる体験を奪わないようにしたいので，即時解決は求めません。」と述べ，また，双方が納得して解決していないときの介入の仕方も「どうしたの？困っていたら助けるけど」と子どもの気持ちや主体性を重んじている。

保育者の役割について，松井[5]（2021）は「自分の考えを言葉にして伝え，相手の言い分も聞きつつ，交渉して着地点を探るには，かなり高度なコミュニケーション能力が必要」とし,「保育者の役割は，お互いの心の理解や交渉能力の獲得に繋がるように，気持ちを言葉にして相手に伝える手助けをすること。お互いの気持ちを理解した上で納得できる妥協点を見つけられるようにサポートすること」と述べている。

今回の聞き取りから，子どもの育ちの過程における人間関係の構築に関する保育者の視点として，次の３点について示唆された。

①子どもが自分の気持ちに気づき相手に伝えていくことと，相手の気持ちや要求を気にかけること。そこに保育者は個人が育つように言葉を添えて確かめるサポートが必要である。

②トラブルの際には，子ども自身がお互いを理解し，当事者となって解決への交渉を経験すること。保育者の介入は大人都合の調和的解決をせず，タイミングを待ちながら，見守ること。

③共同生活の中で大事なこと（４歳児の発達に応じた自立心・社会性・協同性・道徳性・規範意識の芽生え等に繋がる）はクラス全体で話し合い，意識していくことが大事である。

⑸　分析結果からの考察

本研究における保育者への聞き取りで，４歳児ならではの気持ちのすれ違い・仲間外れ・約束の束縛などを垣間見ることが出来，人との関わりが模索されていると感じた。

子どもの人と関わる力に今必要なこと，その際の保育者の役割は，①人との関わりの中で子どもの気持ちの伝え合いを大切にすること。その際，子どもの心の状態を把握する。子どもによっては心が満たされていなかったり，気持ちの表出が難しいこともあるので，段階を追って援助していく。②トラブルの際には，子ども自身がお互いを理解し，解決への交渉経験を大切にする。その際，即解決を求めず，子ども達が納得して折り合いをつけるようサポートしていく。③共同生活の中の出来事は，クラス全体で話し合う。その際，保育者は集団の中で過ごすことの喜びや嬉しさを感じられるように子どもの思いを引き出していく。

本研究は継続研究として行っているが,前回の「子ども同士の『いざこざ』」の研究」井上・田中[6]（2020）で，筆者は保育者が子どもの育ちを支える視点として，ア）～オ）の５つを挙げた。視点ア）子どもは一つ一つの経験を蓄積し，交渉力や気持ちの調整力をつけるため，保育者は，子どもが今，どの発達段階にあるかを把握しなげればならない。視点イ）保育者は子どもの表情や姿を観察し，情報交換を行いながら，友達とのつながりを支える。視点ウ）子ども同士で問題解決できるように，保育者は，日頃から子どもが考える機会を作る。視点エ）子ども同士の話し合いによる，決定事項や約束事は，時として，子どもたちの成長目標となることがある。視点オ）子ども自身が友達の立場を考え，公平性に気を配る目を持ち，気持ちのいい友達関係を築くことができるよう，悪い出来事を見逃さない。

視点ア）では，子どもの経験をもとに気持ちの調整力・交渉力が育っていくが，その子どもの発達段階の把握が必要であるとしたが，本研究において，Ａ保育士の，子どもの心が「満たされて，安定していること」が根底にあり,「保育者が子どもの気持ちを考える段階図」で丁寧な援助を知ることができた。また，生活の中の必要な言葉が使えるように援助し，子どもの発達の壁を見逃さない保育の姿勢を垣間見ることができた。子どもの気持ちを推察することは「憶測でしかないので『子どもに聞く』」という保育者の姿勢も，重要であると考える。また，視点イ）の「観察と情報交換を行い友達とのつながりを支える」保育者の姿勢についても，４歳児は，その仲間との深いつながりを求めていることが確認

できた。保育現場は子どもにとって，「心の発達を促し社会性を養う絶好の機会・場・環境」であることを再認識できた。保育現場における子どもの育ちを促す為にも，人間関係の構築に力を入れていく必要があるだろう。

4．おわりに

本研究では，物事の理解や人への興味関心が深まる「4歳児」に着目し，保育者がその人間関係の構築をいかに実践しているか，その視点に関する分析及び考察を行った。

保育者は，子どもの人格形成に多大な影響力を持つ重要な位置，立場であり，貴重な人材である。子どもが人の中で生きていく際に，人を大切に，自分を大切にする生き方の種をまいていく，これも保育者の役割と言える。保育者は，自分の考えを言葉に表す，相手の立場になって考えてみることに加え，時には，ひとり落ち込んでいる子どもに対し，スキンシップをとりながら寄り添い，子どものこころを大事に，その深層を見極めながら，関わることが求められるだろう。保育者は，子どもの人間関係に着目した保育を模索することで，自身のキャリアアップ，保育者としての資質向上につながると言える。

引用文献・参考文献

1）汐見稔幸・無藤隆他：『保育所保育指針　幼稚園教育要領　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　解説とポイント』，pp24-28，pp334-336，pp344-346，pp395-399，(2018)．(ミネルヴァ書房)

2）大澤洋美・大川美和子：『3・4・5歳児の心Q＆A』，pp 8 - 9，(2017)．(学研)

3）神田英雄："続・保育に悩んだときに読む本　発達のドラマと実践の手だて"，pp. 66-68 (2013)，(ひとなる書房)．

4）秋葉英則・白石恵理子・杉山隆一他，大阪保育研究所：『子どもと保育　4歳児　改訂版』，pp 12-25，pp32-41，(2011)．(かもがわ出版)

5）汐見稔幸・松井智子・中川信子他：『心理学的には、けんかをすぐに止める必要はまったくありません特集　関係はゆるいくらいが、ちょうどいい！？保護者と「つながる」保育エデュカーレ no. 101』，pp24-32，pp26-27，pp30-32，

6）井上聖子・田中麻里："子どもの育ちと人間関係の構築に関する研究（1）－保育現場における子ども同士の「いざこざ」の考察より－"，西九州大学子ども学部研究紀要，第11号，pp45-54（2020）．

7）中山美佐："乳幼児の発達と保育者のかかわりについて：2歳児事例・4歳児事例から"，大阪樟蔭女子大学研究紀要，第9巻，pp263-268，(2019)．

8）小林美沙子："4歳児の「協同的経験」を支える保育者の役割について―4歳児クラスにおける一年間の取り組みから―"，次世代教員養成センター研究紀要，第1巻，pp91-99，(2015)．

9）森田満理子："保育内容「人間関係」に関する研究：4歳児の積み木遊びに焦点を当てて幼児が周囲とのかかわりを広げていく過程を捉える"，川口短期大学紀要．こども学科篇，第22巻，pp135-151，(2008)．

10）中川美和・山崎晃："対人葛藤場面における幼児の謝罪行動と親密性の関連"，教育心理学研究，第52巻，pp159-169，(2004)．

11）秋田喜代美・増田まゆみ・高辻千恵：『発達が見える！4歳児の指導計画と保育資料第2版』，pp 巻頭Ⅳ－巻頭Ⅶ，(2018)．(学研)（2021）．(臨床育児保育研究会)

付記　本研究を進めるにあたり，調査にご協力頂いた保育現場の先生方と子とも達，実習生の皆さんに，心より感謝申し上げます。

＜別添＞

Figure１．実習生の人間関係に関する子どもの姿の記録用紙《拡大版》

幼稚園実習後、園の教育課程「人間関係」に関する　10月の子どもの姿の記録

＿＿＿＿歳児＿＿＿＿組　　学番＿＿＿＿＿＿氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

3歳児

①色々な人の温かさや思いやりに触れ、安心して過ごす。
②喜んで登園し、先生や友達と一緒に過ごす楽しさを感じる。
③自分なりに満足して遊びながら友達と一緒に遊ぶことの楽しさを感じたり、それぞれに思いがあることに気付いたりする。
④遊具や道具の貸し借りをしたり、順番を待ったり交代したりして活動する。
⑤園生活の中で友達とかかわりながら、していいことや、してはいけないことに気付く。
⑥困ったこと、分からないことを伝えたり、感謝の気持ちなどを言葉で伝えたりする。

4歳児

①友達がしていること自分の遊びにも取り入れたり、自分なりに工夫したりして一緒に活動する楽しさを味わう。
②友達との関わりを深め、自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを感じたりする。
③園内の遊具や用具を譲り合ってみんなで大切に使う。
④友達と生活する中で、きまりの大切さに気付き、守ろうとする。
⑤（地域の人、高齢者の人と触れ合い）周りの人に親しみをもって関わる。

5歳児

①周りの人から認められる経験をしながら、友達との関わりの中で相手の良い面を認めたり褒めたりして、自信をもって行動する。
②友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり協力したりする。
③友達と力を合わせ、他のチームと競技を競う楽しさ、難しさを共感する。
④異年齢の子どもとの関わりを深め、思いやりやいたわりの気持ちをもつ。
⑤（高齢者をはじめ地域の人々などの）自分の生活に関係の深い人に親しみ、感謝の気持ちを表す。

人との関係性について、印象に残っている子どもの様子や場面を思い浮かべ、記入しよう。

イニシャル＿＿＿＿＿＿

	◎	○	△	思い浮かぶ具体的な子どもの姿
①				
②				
③				
④				
⑤				
⑥				